

はじめての
万葉集
日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介!

vol.
124

島の宮の勾の池

柿本人麻呂は史書に登場せず、生没年や系譜や官職など一切不明ですが、『万葉集』を見る限り、持統・文武両天皇の時代に活動して百首近くの歌を残した人物です。吉野行幸での儀礼歌（巻一・三六〜三九番歌）や『万葉集』中で最も長い高市皇子挽歌（巻二・一九九番歌）などの長歌作品が特徴的で、独特な表現を多用することでも知られます。『万葉集』には「柿本人麻呂歌集」から採ったとある四百首近い歌もありますが、すべてが本人の作歌ではないと考えられています。また、平安時代に編纂された『古今和歌集』の序では歌の聖として讃えられ、近世には和歌の神様として祀られる対象とも

なりました。この歌は「日並皇子尊の殯宮の時」の作と記された長歌と反歌二首（巻二・一六七〜一六九番歌）に続く「或る本の歌」で、持統天皇三（六八九）年に没した草壁皇子（日並皇子尊）への挽歌と考えられます。「島の宮」とは草壁皇子が生前に住んでいた宮であり、もともとは島大臣とも呼ばれた蘇我馬子の邸宅があった場所でした。この「島」とは、人工の池とその中に築かれた小島を有する庭園を意味し、自宅にそのような庭園を造ったのは臣下としては馬子が初めてだったことから、島大臣と通称されたといえます。石舞台古墳の西方にあつたと推定されており、現在そのあたりの地名を島庄しまのしょうというのもその名残とみられます。

島の宮 勾の池の 放ち鳥 人目に恋ひて 池に潜かず

柿本人麻呂 卷二（一七〇番歌）

訳 島の宮の勾の池に放たれた鳥は人の目を恋しがって池に潜ろうともしない。

ただし、島庄遺跡からは「勾の池」に相当するような湾曲した池の遺構や「島」の重要な構成要素である人工の築山の痕跡は検出されていません。もしかししたら今後の発掘調査で見えるのではないかと、期待を抱いているところです。

（本文 万葉文化館 井上さやか）



万葉文化館 イベント情報

◆ 館蔵品展「万葉 恋ものがたり」

開催中〜9月16日（祝）

「万葉集」におさめられた男女の恋歌をモチーフに描かれた「万葉日本画」から、万葉の人々の恋模様を垣間見てみましょう。



三輪良平《花のみに咲きて》
奈良県立万葉文化館蔵

◆ 万葉集をよむ「春の相聞（1）」

（巻8・1448〜1455番歌）

8月28日（水）14時〜15時30分

無料

〔定員〕150人（先着申込不要）

※オンライン視聴は要申込（定員なし）

〔講師〕阪口由佳（当館主任研究員）

◆ にぎわいフェスタ万葉 夏

開催中〜8月28日（水）

七夕かざり

8月1日（木）〜8月10日（土）

短冊に願い事を書いて
笹に飾りましょう。

旧暦の七夕は8月10日だよ

万葉クイズ

〜万葉の世界で遊ぼう〜

8月24日（土）・8月25日（日）

10時30分〜12時

13時30分〜15時

館内をぐるっと回って

万葉クイズにチャレンジ！

参加者にはグッズを
プレゼント！



奈良県立 万葉文化館
☎0744-54-1850
www.manyo.jp